

不幸な犬を救いたい！！

3年2組18番 西本真奈美
3年1組10番 齊藤ともか
3年2組20番 服部由奈
3年2組23番 藤岡里琴

Keyword: 「保護犬」「ブリーダー」「ペットショップ」「殺処分」「幸せ」

1. はじめに

友人の母が保護犬の一時預かりのボランティア活動をしており、そこで保護犬のことを知った。保護犬は保護ボランティアの方々に保護されるまで苦しい思いをして過ごすことが多いとSNSを通して知り衝撃を受けた。調べていくと、その理由がペットショップの仕組みにあることがわかった。私たちはすべての犬が幸せに過ごせるようにこの現状を変えたいと思いこの探究を始めた。

2. 序論

犬の保護団体のInstagramの投稿で、行き場のない犬を引き上げ、保護している写真を見た。廃業した繁殖場に82頭の犬がろくにエサも与えられず、糞尿にまみれ、ケージの中の世界しか知らないまま過ごしている。管理されていない汚いゲージの中で辛い思いをしている犬がこんなにいるのかと衝撃を受けた。保護団体は犬を引き上げた後、医療機関に預けてケアをし、里親に譲渡していく。調べてみると、日本では繁殖場の廃業や規模縮小、ブリーダーから手放されたりと、行き場のない犬猫の情報が保護団体に多く寄せられる。ブリーダーにより犬たちが山に捨てられたとみられるケースも全国各地で報告されている。そしてまた、ドジャース所属の大谷翔平選手が飼っている「コーイケルホンディエ」という犬が一躍人気になっているという記事を見た。調べてみると、大谷翔平選手と同じ犬が飼いたい、というファンが多く、ペットショップに問い合わせが殺到しているらしい。大谷翔平選手がア・リーグMVPを獲得した瞬間が放送された時に、飼い犬とハイタッチをし、可愛がる様子が何度も映し出された。その犬の犬種は「コーイケルホンディエ」という日本では毎年100頭前後しか登録されていない珍しい犬種だ。初めて正式な名前を耳にしたファンからの電話が鳴りやまない事態となっている。全国に133店舗を展開しているPetPlusのとある店舗では、大谷翔平選手のMVP受賞が決まった日から、「大谷君と同じ犬いますか?」「どこに行けば買えますか?」「お値段はおいくらぐらいですか?」「入荷予定はいつになりますでしょうか?」といった問い合わせが続いているという。

大谷選手と同じ服を買いたいという心理はわかるが、大谷選手と同じ犬が欲しいという発想はそもそも生き物を飼おうという心構えから逸れていると思う。そのような消費者の心理を利用して、利益を生み出そうとするペットショップに対し疑念をもった。そして、利益のために命を利用する人たちにより生み出される不幸な犬たちを助ける団体である保護団体にも興味を持った。

そこで私たちは、ペットショップや保護団体について詳しく調べることにした。

3. 本論

ペットショップの経営を支えているのは、誰かがペットを購入した後に空いたケージにすぐに新たな犬猫を供給するという命の大量生産・大量消費が関係している。売れ残った動物の処遇や繁殖用の犬猫の飼育環境、安易にペットを購入した結果の飼育放棄など、ペットショップは目を背けたくなるような現実と隣り合わせの存在だ。

捨てられてしまった犬はそのまま野良犬になるか、保健所に連れていかれる。保健所に連れていかれた犬たちは、約1週間程度そこで生活をする。その後、引き取り手が見つからないと殺処分されてしまうが、保護団体が保護したり、引き取り手が見つかることで殺処分を免れることができる。保護団体に保護された犬たちはシェルターというところに行き、病気の予防や治療をしたり、しつけのトレーニング、人と触れ合う練習をする。しかし、慣れていない人と触れ合うことが怖いと感じる犬もいるため、もっと人慣れをするためにたくさんの人と触れ合える譲渡センターというところに行く。譲渡センターは、新しい家族を待っている犬たちと、新しい家族を迎えたいと思っている人を繋ぐ役割をしている。

実際に私たちの目で保護犬を見たり、保護活動を行っている方に直接話を聞き、現状を知りたいと考え、ピースワンコジャパンという保護団体の生駒譲渡センターに行き、様々なボランティア活動を行った。

一回目に訪れた際には、保護団体の方々に話を聞き、犬の生い立ちや引き取られた時の状況、保護犬の増減、伝えたいことなどについて話を聞くことが出来た。

はっきりとした生い立ちについてわかる子はおらず、犬の状態を観察し、元は人に飼われていたか、野犬だったかなど曖昧なことしかわからない。また、昔と今の犬の殺処分の増減については環境省のホームページによると減っている[図1]。昔は、ペットショップで売れ残った犬は保健所に連れて行かれ、そして殺処分されていた。保健所での殺処分数は減っているがその分繁殖業者に流れてしまっている可能性があり、劣悪な環境で生活している犬もいる。このことから、殺処分数が減っているからといって幸せな犬が増えているとは限らないということを知った。

全国の犬・猫の殺処分数の推移

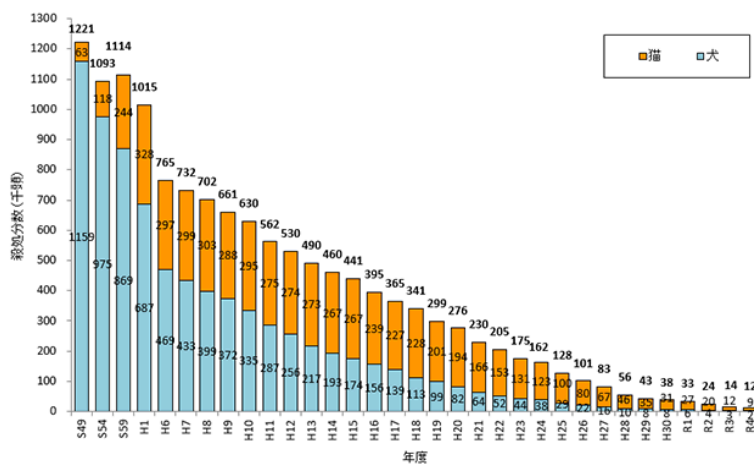


図1

二回目はボランティア活動に参加した。ボランティア活動の内容として、犬のゲージを雑巾で拭いたり、床をモップがけしたりなどの掃除や人慣れのためにおやつやご飯をあげたり餌を切ったり、使い捨てタオルを作ったり、おやつの日付をメモしたり、散歩に行ったりした。犬にとって散歩は心身の健康維持に必要不可欠なことで、屋内でも体を動かすことはできるが外に出て様々な匂いや音に触れることで、犬の脳は強い刺激を受ける。特に保護犬にとって屋外に出ることは、他の犬や人間と接して社会性を身につけ、外の世界を知ることによって恐怖心を減らす貴重な機会でもある。散歩に行くと知り、早く出たいとワクワクした表情で力強くリードを引っ張ったり、楽しそうに散歩する姿が印象的で一緒に公園を走ったり遊ん

だりもした。しかし、過去の経験からボールの音を怖がったり、子供に対して吠えてしまう犬もいた。



ボランティアは、犬にとってたくさんの人と関わる大切な機会の一つである。初対面の人にお世話をしてもらうことによって、未来の家族との生活に馴染みやすくなったり、人に対して恐怖心を軽減させるきっかけになる。実際にボランティアの方々に話を聞いたり、ボランティア活動に参加したことで、より犬への理解が深まり、私たちが体験したことを多くの人に知ってもらい、保護犬や怖がりな犬への接し方の理解をもっと深めてほしいと感じた。

ペットショップではなく、保護犬という存在を知ってもらい、選択肢としていれてほしい。決して簡単な気持ちでは迎えず、10年後でも幸せにできるのかを考えてから飼ってほしい。ペットショップは子犬が多いが、保護犬は年齢がバラバラで子犬が少ないため、ペットショップに比べて一緒に過ごせる時間は少ない。しかし、その時間を大切に、何をしてあげられるのか、何を考えているのか、最後まで幸せにできるのかを考えてほしい。人間と同じ命であることをわかって欲しい。私たちはこれをより多くの人に伝えていかなければならないと感じた。

4. 結論

ペットショップは、命の尊重よりも利益を優先する場面が多く見受けられ、その結果として多くの犬が捨てられ、保護犬となっている。ペットショップは、売れ残った動物や過剰繁殖の問題を引き起こして、結果的に動物たちが命を脅かされるという負のサイクルを生み出している。この状況を変えるためには、消費者の意識を変え、無責任なペットの購入を減らしていくことが必要だ。一方で、保護団体やボランティアによって、命を救われた犬たちが新たな飼い主のもとで新しい生活を始めるという希望もある。私が実際にボランティア活動を通して見聞きしたことから、保護犬は適切なケアと愛情を受けることで、再び人間との信頼関係を築き、健康的で幸せな生活を送ることができるという現実も確認することができた。こうした活動は、ペットショップで新しい命を迎える代わりに、既に命を持つ動物たちを救うという選択肢が広がっていることを示している。また、消費者一人ひとりが自身の行動に責任を持ち、衝動的なペットの購入ではなく、保護犬を迎えることを選択するという意識改革が必要だ。

5. おわりに

本研究を通じて、ペットショップの販売システムと保護犬の現状について詳細に調べ、深い理解を得ることができた。ボランティア活動や保護団体の努力によって、多くの犬たちが

新しい家族に迎えられ、再び幸せを取り戻す機会が与えられていることは希望でもある。これからも現状を知ってもらい、たくさんの犬が幸せになるようこの探究を続けていきたいと思う。

6.参考文献・出典

"シェルターについて"、犬猫生活福祉財団、

<https://inuneko-fukushi.or.jp/information/shelter/#:~:text=吉岡%20にゃんこシェルター-,動物保護シェルターとは,も行っております%E3%80%82>

<https://wanko.peace-winds.org/journal/9175> 2024/10/18

"次々と起こる繁殖場の崩壊、廃業、規模縮小、たくさんの行き場のない子たちの事"

<https://ameblo.jp/anfospe3ham/entry-12868935322.html> 序論:繁殖業者の廃業により

2024/10/18

"新たな課題「繁殖引退犬」問題を考える 藤田康人のウェルビーイング解体新書【26】"

<https://www.asahi.com/sdgs/article/15367904> 序論:ブリーダーが山に犬捨てる事件

2024/10/18

デイリー、"大谷需要 ペットショップに問い合わせ殺到「大谷くんと同じ犬いますか？」

「いくらがぐらいですか？」ハイタッチで一躍有名になった"時の犬、

<https://www.daily.co.jp/mlb/2023/11/18/0017041269.shtml> デイリー 大谷選手とデコピン

2024/10/18

"犬・猫の引き取りおよび負傷動物等の収容並びに処分の状況"、環境省、

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html 環境省ホームページ

殺処分数、2024/10/18